

令和7年度 文教常任委員会 行政視察報告書

視 察 日 時	令和7年11月19日(水)午前10時00分から午前11時30分		
視 察 先	愛知県刈谷市	人口	153,073人 70,660世帯 (令和7年11月1日現在)
		面積	50.39 km ²
担 当 職 員 等	教育部生涯学習課		
視 察 内 容	中高生の居場所づくり「なごみんはあと」について		
視 察 目 的	街中でのたむろ・非行等を無くしていく為、様々な理由で家庭や学校に居場所のない中高生の気軽に集える居場所づくりが必要なのではないか。その先進事例の視察。		
調 査 概 要	<p>【中高生の居場所づくりについて】</p> <p>1. 導入に向けて 学校での居場所がないことは、いじめや不登校に繋がる。学校以外の居場所がない事は、街中でのたむろや非行に繋がる。乳幼児には子育て支援センターなどが、小学生には放課後子ども教室などがあるのに、中高生の主体的な活動の場所がない。仲間同士の助け合いや悩み相談、自主活動の支援による中高生の自立支援について、必要性を感じていた。そこで、刈谷市総合文化センターが刈谷市駅前にオープンするに伴い、居場所があれば、中高生が集まりやすいのではないかという考えがあった。</p> <p>2. 概要 開設 平成22年4月中高生の居場所「なごみんはあと」開始 →180件の応募の中から、名前を決定。 平成29年9月学習支援「なごみん塾」開始 主旨 中高生が放課後に自由に集い、地域の人々や大学生と交流や悩み相談ができる機会を提供する。また、中高生自らがイベント等の企画運営ができる機会を提供する事により、中高生の自立を支援する。</p> <p>3. 運営 業務委託。NPO法人 子育て・子育て NPO スコップ。市や企業と協働し、子育て中の方への情報提供や相談窓口の運営をはじめ、未就学児から対応できる遊び場や、高校生までが利用できる居場所の提供などを行っている。スタッフ2名と、大学生のボランティアスタッフ2~4名。市内の愛知教育大学の学生に学校体験活動の一環として参加してもらっている。スタッフは委託先が雇用し、給与は市の会計年度任用職員の規定を準用。委託料 3,628 千円。特定財源 797 千円。(地域未来塾分)</p>		

令和7年度 文教常任委員会 行政視察報告書

所 感	<p>現在、「なごみんはあと」を利用している子どもは、現在のところ、家庭や学校に居場所のない子どもは少ないような感覚だそう。しかし、事業の特性上、利用者の個人情報やバックグラウンドは聞かない、名前も聞かない為、実際のところは不明。学校や家庭に居場所のない子ども達は、中学校内の教室以外の安心して過ごせる場所、ほっとルームにて対応しているそう。刈谷駅に近い、総合文化センターにあり、利用し易い立地であると感じた。大学生のボランティアも参加。「なごみんはあと」は週に2日しか実施されていないが、名前も聞かれないバックグラウンドも話さなくてもよい居心地のよい場所として、利用している子どもも一定数いると考えられる。街中でのたむろ・非行に対して等の効果は見えにくいため、例えば、事業を行うにあたっては、目的は明確にすべきであると、助言頂いた。さらに、中高生という非常に短い年代はニーズが変化しやすいという事も伺った。重大事案の恐れがある場合には、保護者と学校との連携をとる準備はあるそう。さらに、こういった居場所にも来れない、現在のところ、救えていない子どもも一定数いる。そういった子ども達についてどう考えるか、伺った。ネット上での居場所、傾聴に特化した AI 等も考えているという事だった。政治の光が必要な子どもにあたる様、いろんな角度からの支援が必要。市政への提言に生かしていきたい。</p>
--------	--